

# 草原と中華のあいだ

— 北方王朝 (遼・金・元) の興起とユーラシア東方

第1回 9月30日(金)

古松 崇志 (京都大学)

「天と祖先をまつる — 遼・金・元の儀礼祭祀と王権」

第2回 10月7日(金)

藤原 崇人 (龍谷大学)

「契丹(遼)・金の社会と仏教」

第3回 10月14日(金)

渡辺 健哉 (大阪公立大学)

「金・元時代の都市と生活」

第4回 10月21日(金)

飯山 知保 (早稲田大学)

「モンゴル時代の記憶と祖先伝承」

各回とも 18:00 ~ 20:00

事前登録が必要です **聴講無料**



視聴を希望される方は

以下のリンクから事前登録をお願いいたします。

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_alBBXDngRpy7PYigywVifQ](https://zoom.us/webinar/register/WN_alBBXDngRpy7PYigywVifQ)

ご登録いただいたメールアドレスに追って視聴用URLが送付されますので、シンポジウム当日はそちらのURLにアクセスをお願いいたします。

【なお、一度の事前登録で、4回のうちいずれの回もご視聴いただけます】

主催 京都大学人文科学研究所

お問い合わせ [z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp](mailto:z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp)

<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>





# 草原と中華のあいだ —— 北方王朝（遼・金・元）の興起とユーラシア東方

かつて中央ユーラシアの草原地帯には、狩猟や遊牧を生業とする人びとが広範に暮らしていました。その東部に位置するモンゴル高原やマンチュリア平原の狩猟遊牧民は、騎馬軍事力を武器にしばしば強大な王朝をうち立て、北から勢力を伸ばして南の中国の定住農耕社会と対峙します。ときには中国を征服するに至り、中国史・東アジア史に大きなインパクトを与えました。とりわけ10～14世紀に遼（契丹）・金（女真）・元（モンゴル）といった北方王朝が中国を本格的に支配するようになると、遊牧国家の伝統を維持しながらも、中国王朝の制度を導入し、複合的な統治のしくみを確立します。

今回の連続セミナーでは、これらの北方王朝にかかわる儀礼祭祀、信仰、都市、記憶と伝承といったテーマを切り口にして、王朝の支配者集団および支配下の中国社会における文化接触・変容などの問題について考究し、現代中国の民族問題までを視野に収めつつ、多様な人間集団が移動・接触・混淆してきたユーラシア東方の歴史のダイナミックな魅力をお伝えできればと考えています。

## 講師紹介

### 古松 崇志 京都大学人文科学研究所 教授

FURUMATSU Takashi

専門 | ユーラシア東方史

主著 『シリーズ中国の歴史③草原の制覇』（岩波書店、2020年）

『金・女真の歴史とユーラシア東方』（勉誠出版、2019年、共編著）

『金（女真）と宋—12世紀ユーラシア東方の民族・軍事・外交』（研文出版、2021年、共著）

### 藤原 崇人 龍谷大学文学部 准教授

FUJIWARA Takato

専門 | 中国・北アジア仏教史

主著 『契丹仏教史の研究』（法蔵館、2015年）

『金・女真の歴史とユーラシア東方』（勉誠出版、2019年、共編著）

『神仏融合の東アジア史』（名古屋大学出版会、2021年、共著）

### 渡辺 健哉 大阪公立大学文学研究科 教授

WATANABE Kenya

専門 | 中国都市史・元代史

主著 『元大都形成史の研究—首都北京の原型』（東北大学出版会、2017年）

『元朝の歴史—モンゴル帝国期の東ユーラシア』（勉誠出版、2021年、共編著）

『岩波講座世界歴史 第7巻 東アジアの展開』（岩波書店、2022年、共著）

### 飯山 知保 早稲田大学文学学術院 教授

IYAMA Tomoyasu

専門 | 中国華北社会史

主著 『金元時代の華北社会と科挙制度—もう一つの「士人層」—』（早稲田大学出版部、2011年）

『元朝の歴史—モンゴル帝国期の東ユーラシア』（勉誠出版、2021年、共編著）

『岩波講座世界歴史 第10巻 モンゴル帝国と海域世界』（岩波書店、2022年、共著）

